

平城京の都市設計

The Urban Design of Heijo-Kyo

阿部義平

①序めに

②平城京の都市設計

- 1) 左右京の大寺の占地設計
- 2) 東西市と堀川
- 3) 外京と寺々
- 4) 東大寺・西大寺など
- 5) 平城の飛鳥と新益京の12条京の視点

【論文題目】

平城京は和銅3年（710）から延暦3年（784）まで営まれた古代日本国の代表的な都城である。この京は、藤原京（694～710年）から新たに移った都で、両京の間には継続する側面と、遷都に当たって新しく導入された側面とが指摘されてきた。両者の間には条坊制等における継続面はあるが、京の外形や宮の外形や宮の位置をはじめ、多くの変更点がみられ、その多くは、大陸の唐の都である長安の制度等を参考に、急いで模倣した点があるとされてきていた。しかし筆者は、両京が極めて密接な引継ぎ関係にあり、平城京の形成や設計の変更が藤原京を基本的に引継いでおり、しかも藤原京に限らない旧京のあり方を解明する上でも、重要な内容を示していることを、2003年の「藤原京・平城京の構造」の論文で示した。本論は、その立証点をさらに深め、両京の関係が日本列島内での首都の引継ぎであり、日本都城史の流れの中で、画期的に重要な集大成的な造都内容であることを論証するものである。